

【11月・1歳児・高月齢】

ほいくのおまもりプラス

	Aさん(高月齢/男児/活発) (2歳7カ月/4月生まれ)	Bさん(高月齢/女児/活発) (2歳6カ月/5月生まれ)	Cさん(高月齢/男児/静か) (2歳5カ月/6月生まれ)	Dさん(高月齢/女児/静か) (2歳4カ月/7月生まれ)
子どもの姿	1. トイレで排尿できることが増えてきたが、排便はオムツで行っていた。 2. 公園ではボールを追いかけてたり、遊具で元気に楽しめ、「まだ遊ぶ」と帰りがたらない姿もあった。 3. 登園時に泣きながら「ママがいい」と怒る姿が増えたが、室内に入ると気に入った玩具を見つけて遊び始めることができた。	1. 食事や手洗いの際に服が濡れると、「ぬれちゃった」と気にして着替えたがり、自分のロッカーから服を選んで着替えていた。 2. 友だちと同じ遊びを楽しむ中で、気に入った色のボールやおままごとの玩具などを取り合う姿が見られた。 3. お迎えが来て「まだ遊ぶ」と言って帰りがたなかったり、保育園の玩具を持ち帰りがたることがあった。		
ねらい	1. トイレで排泄する 2. 戸外で体を動かす楽しさを十分に味わう	1. 簡単な身の回りのことを自分でしようとする 2. 自分の思いを言葉で伝えようとする		
内容	1. 尿意や便意を言葉やしぐさで保育者に伝え、便器に座って排泄する。 2. 保育者や友だちと一緒に公園へ出かけ、ボール遊びや追いかけて遊んで体を動かして遊ぶ。	1. 衣服が汚れたら、保育者に見守られたり手伝ってもらいながら着替え、清潔になった心地良さを感じる。 2. 友だちと一緒にままごとを楽しむ中で、自分の思いやしてほしいことを簡単な言葉で伝える。		
環境構成 配慮 援助	1. 自分から尿意を伝えられたときは大いにほめ、トイレに行く意欲を育てていく。排便時にトイレに誘う際は無理強いににならないように配慮するとともに、オムツに排便したことを伝えられたときは「教えてくれたんだね、きれいにしてあげようね」と受け止め、清潔にする心地良さを感じられるようにする。 2. 保育者も体を動かして楽しさを共有しながら、歩く、走る、投げる、蹴るなど様々な体の動きを十分に楽しめるようにする。帰りがたらないときは、「たくさん走って楽しかったよ、また遊びに来ようね」「おいしい給食ができていますから、食べに帰ろうね」と本児に寄り添いながら言葉かけ、折り合いをつけられるようにする。	1. 衣服が汚れたことに気がついて自ら着替えようとする姿を大切に、着替え終えたあとは「さっぱりしたね」と心地良さに共感する。水が少しかっただけで着替えたがることもあるので、本児の気持ちに寄り添いながら、「先生が拭いたら乾くかな」と伝えながら拭くなどして、本児が納得できるように関わる。 2. ままごと用の道具やスペースを整え、保育者や友だちと一緒に生活の再現を楽しめるようにする。保育者も一緒に遊びながら言葉でのやり取りを促せるように関わり、とっさに思いを言葉にできない姿が見られるときは、「これが欲しいのかな」「まだ使っているのかな」と本児の思いを受け止めながら言葉にして、相手に伝わるように援助する。		
食事	・苦手な野菜を避ける姿が見られるので、提供する量を調整したり「先生と一緒に食べてみよう」と誘い、食べる意欲を育てる。 ・自分で食べる姿を見守りながら、「給食おいしいね」「たくさん食べられるね」とやり取りして、楽しい食事の雰囲気を作る。	・苦手な物でも食べようとする姿を見守り、食べられたときは「自分で食べられたね」と言葉かけながら一緒に喜ぶ。 ・スプーン山盛りにご飯をすくい、「みてみて」と言いながら口に入れようとするところがあるので、「喉に詰まって危ないから、少し減らそうか」と伝えながら保育者がすくって見せ、適切な一口の量を伝えていく。		
家庭の連携	3. 「今日はママがいいんだね」と本児の気持ちを受け止めながら好きな遊びに誘い、お迎えの際には、気持ちを切り替えることができた様子を伝え、保護者が安心できるようにする。 ・園でも家庭でもイヤイヤ期真っ只中にある本児の姿を共有し、保護者の日々の大変さや思いに寄り添い、信頼関係を深める。	3. 事前に「もうすぐお迎えだね」と伝えて気持ちの切り替えをしやすくするとともに、帰りがたらないときは「もつと遊びたかったね」と寄り添い、「公園で遊んだこととお話してあげよう」と誘ったり、玩具を次の日まで取っておけるようにする。 ・午睡の際に布パンツで寝たがる日が増えたので、着替えを多めに持ってきてもらう。		
評価・反省	1. 排尿前に「トイレ行く」と自分から伝えられることが増えてきた。排便の際はトイレに行きたがらなかったため、今後も焦らず本児の気持ちに寄り添いながら対応する。 2. 散歩の際は「ボールしたい」と希望し、公園で投げたり追いかけてたりして楽しんだ。帰る前には「もう一度ボールを捕まえたなら帰ろうね」など本児に対して個別に伝える対応をしたが、帰る際に怒る日もあったので、引き続き折り合いをつけやすい関わりを考えていきたい。	1. 着脱しにくそうときはさりげなく援助し、自分でできた喜びを感じられるように関わった。少し袖が濡れただけでも気にする様子が見られるので、手洗いや食事の前には腕まくりをするなど、汚れにくい方法を伝えて安心できるようにする。 2. 友だちとのやり取りを楽しんでいるときは、介入し過ぎず見守ることを心がけた。まだとっさに言葉が出ずにもどかしそうにする姿もあるので、必要に応じて言葉を補いながら仲立ちしていく。		

無料版：2名分
↓
有料版の
"おまもりプラス"
は12名分が
閲覧&DL可能！

子どもの姿の1, 2は『内容/ねらい/環境構成・配慮・援助』、3は『家庭との連携』と連動しています。

敬称と性別表記: ウェブサイトに当社方針を記載しております。